



大祓詞後釋

下

特別
イ4
3163
156(2)



貴
14
2163
156(2)

四
固
下
部
廿
八
才



大被詞後釋下卷



本居宣長釋



如此出波。天津宮事以。

考云。皇祖神の降詔を奉りて宣の事と云。神代紀の科素
 蓋鳥尊千座置戸之解除以手爪為吉爪棄物以足爪為
 凶爪棄物乃使天兒屋命掌其解除之太諄辭而宣之焉。
 〇此の事は乃後かゝることを本居宣長が考へたり。〇曰
 頭書云。宣事を今本宮事一本宮事と云。宣字を信と考へたり。
 〇後釋。天津宮事といふ。高天原なる天照大神の朝廷より行
 る事あり。儀式ありて。そのゆくはひあり。事をいふ。元て此の事あり。

して皇孫命の御延乃儀式も何と。皆かの天上乃御延の御行
む。行をせ給ひて。こげ祝詞ふ。天は夏冬。天は祝詞あや。つと。
か。承る。く。此。ゆも。天。津。宮。心。て。用。ひ。ら。く。物。心。な。す。く。よ。る。り。心。
考ふ。宮。字。派。宣。ふ。改。を。て。況。ま。と。と。皇。祖。神。の。詔。を。奉。り。て。宣。
の。り。と。ま。こ。い。れ。ま。ハ。宣。事。ハ。皇。祖。神。の。詔。事。と。い。ふ。と。又。う。
き。給。り。て。の。り。乃。宣。事。う。い。ま。ぎ。う。り。く。して。何。方。も。と。ま。と。
か。さ。し。り。皇。祖。神。此。詔。あ。ら。ば。も。清。名。を。奉。べき。ふ。ま。天。津。宣。
事。と。い。ひ。ま。ハ。や。が。う。い。傷。も。あ。ら。ま。こ。い。ま。皇。祖。神。の。詔。ふ。
より。て。ま。ら。ま。ハ。云。の。命。以。て。こ。い。つ。宣。事。以。て。い。ふ。例。ま。こ。
と。し。り。又。う。ま。ら。り。て。の。り。の。宣。事。と。ま。ら。ま。ハ。下。の。天津。祝。
詞。乃。太。祝。詞。事。乎。宣。祀。と。い。ふ。と。何。れ。の。掛。く。ま。り。て。文。理。
の。り。の。い。ふ。と。い。づ。も。宣。事。と。い。ふ。と。宣。事。と。い。ふ。と。又。天。津。

宮事といふを例まきこく。心れまこども。おどろ。つ。い。ま。ま。ま。聖
武天皇は。大。津。母。命。は。詔。を。千。尋。葛。藤。高。知。天。宮。姫。命。と。稱。し。
給。へ。る。も。天。津。ま。と。い。ふ。
あ。の。り。の。い。ふ。て。ま。ら。

大中臣。

考云。天。皇。命。り。給。ま。て。神。を。掌。儀。官。派。中。津。臣。と。い。ふ。と。
の。津。於。を。給。り。て。奈。加。登。美。と。い。ふ。し。ら。と。神。と。君。と。の。中。を。取。て。宣。
く。中。津。と。い。ふ。斎。の。み。ま。を。入。御。杖。代。止。進。給。布。御。命。
乎。大。中。臣。茂。辨。中。取。持。と。い。ふ。と。又。舒。明。天。皇。紀。に。大。臣。
所。遣。群。卿。者。如。嚴。乎。取。中。事。奏。請。人。等。也。と。い。ふ。も。ま。ら。い。い。じ。
ま。ら。大。中。臣。と。い。ふ。と。ま。ら。ま。ら。天。皇。紀。大。臣。事。の。い。ふ。を。大。津。

を多きとバ殊小御巫といふは、祈事系祝詞小餘の座摩御
門生嶋もどけ巫をバ御巫と云、神祇官のをバ大御巫とあるは、
さて考ふ大宮主の巫巫といふは、續紀小大宮主御巫といふ
ききる文のつゝ、その大宮主といふ巫と二つをいつたは、一つは、
らとて家なり、大宮主の巫巫と
いふりのを、つゝ、あてねしし。

天津金木 乎。

考ふ云、天津といふは、本天つ神より、おとば、系とて、いふは、金ハ倍字アリ
て、金本ハ、齋明天皇紀小、兵盡前、役以、格戦といふは、格ハ若本
を捧といふは、握り本といふは、大きなもので、手小取をかりあ
ふ本は、より、いけつゝ、おぎのほを、累きて、かききといふは、孝徳天皇の

所あり小、舸、娜紀都、該阿我、柯賦、古麻播、比、根、涅世、儒とよ
ませありとせし、小本、河馬の是、小、結、射、て、ほ、ぐ、と、さ、さ、い、ふ、む
き、で、せ、む、ハ、引、出、不、為、し、万、葉、小、本、柁、越、尔、麥、咋、駒、乃、と、中、を、と
拒、格、と、出、原、も、い、と、或、人、今、も、亦、好、小、人、小、本、の、枝、を、か、さ、本、と
い、ふ、い、つ、り、又、さ、は、人、の、流、り、や、い、む、ね、を、目、つ、く、い、ふ、小、志
と、残、り、む、若、本、は、芽、小、目、を、衝、とい、ふ、と、い、ふ、と、その、若、本、は、本、末
を、切、る、を、系、系、中、河、結、て、物、乃、置、座、と、さ、さ、し、○、同、乃、云、和、名
抄、刑、具、部、小、鉗、岐、以、鐵、束、頸、也、又、云、欽、和、名、脰、沓、也、こ、ハ
後、の、か、く、文、字、を、奉、も、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、は、た、は、ほ、ぐ、い、ふ、小、本、を
用、い、と、い、ふ、小、本、加、奈、紀、と、名、を、つ、く、し、物、を、け、和、名、小、依、と、い、ふ
こ、さ、と、刑、具、と、い、ふ、本、末、を、き、く、ハ、刑、具、を、破、り、て、今、より、用、い
ぶ、る、代、示、と、い、ふ、若、本、は、割、も、解、と、い、ふ、と、い、ふ、は、か、く、い、ふ

依るゝがてりて。中と釋ら。刑具を被柱の置座のきりし
り。何れも是をせりしと釋さるゆゑ。刃物なきことありし也。
○後釋。金木あり。考の説りぬ。文選東方朔が文おも。以^リ筵^ナ
撞^リ鐘^ツとて。注ふ。筵。小木枝也とあり。考ふ。後考り。此の
注を思きて。かききといふれ。本末とあり。考徳天を
の大い。又此祝詞にいふ。加^カ那^ナ紀^キは。みか加^カ那^ナ紀^キは。巴^ハら。本より
乃名ちか。の齊の紀の楯を都加^ツ那^ナ紀^キと訓る。握加^ツ那^ナ紀^キといふ
とあり。手小取^テ持^チて。幾いふも。今考の棒^{ボウ}。此の名帳小。大。和
國^ツ宮^{ミヤ}陀^ダ郡^{グン}都^ツ賀^カ那^ナ本^ホ社^{シヤ}といふ。此物小なり。此名なり
とあり。加^カ那^ナ紀^キは。細^ホ木^キなり。とある。中^{ナカ}手^テ小^コ取^テ持^チは。考
きを。握^ツり^テ持^チは。とあり。つらきと云ふ。考の大小の。かききと紀^キ
とあり。巴^ハら。名をいふ。名に。又和名あり。刑具

の鉗^{クワン}を。かきき。とあり。考のいふ。これ。とあり。りや。小木^{コノキ}伐^キ
刃^ヤす。り。が。後^{ノチ}。鉄^{テツ}より。りて。名^ナ。有^アり。なり。し。
物^{モノ}。小^コ。なり。金^{カネ}木^キ伐^キ。刑具^{ケイグ}。とあり。とあり。
末^{マタ}の物^{モノ}。小^コ。なり。本^{ホン}。名^ナ。を。得^{トク}。る。あり。

本打切末打斷^{モチキリマエウチタテ} 氏^テ。

考云。本末をバ切捨て。中ら。た。よ。き。和。を。細。の。置。座。と。と。い。へ
る。こ。ま。次。の。天^{アメ}。淨^{シヨウ}。獲^{ウチ}。る。物^{モノ}。と。對^{タイ}。へ。といふ。文^{ブン}。に。古^コ。事^{コト}。紀^キ。傳^{デン}。寧^{ネイ}
天^{アメ}。地^チ。紀^キ。五^イ。十^{ジュウ}。隱^{イン}。山^{サン}。三^{サン}。尾^ビ。之^ノ。竹^{タケ}。本^{ホン}。詞^チ。岐^キ。苜^{モウ}。末^{マタ}。押^{オシ}。磨^{シヨウ}。云^ク。弘^{コウ}。計^{ケイ}。
天^{アメ}。地^チ。紀^キ。小^コ。石^{シヨク}。上^{ウヘ}。振^{フリ}。之^ノ。神^{カミ}。搵^ネ。伐^キ。本^{ホン}。截^{セツ}。末^{マタ}。也^ヤ。古^コ。文^{ブン}。の^ノ。例^{レイ}。に。
○後釋^{ノチ}。切^キ。と。断^{タン}。も。は。い。ふ。を。言^{コト}。解^ゲ。さ。す。い。ふ。文^{ブン}。を。り。
さて。此^{コノ}。次^{ツギ}。に。置^{オケ}。座^ザ。小^コ。造^{ゾウ}。る。を。い。ふ。に。ハ。と。あり。ぬ。め。く。物^{モノ}。

ざんじ。造りといふごとくして。ふた千座置座なる。といひつ
き。ハ古文のころあてか。さぬ。いづ。例。ま。

千座置座 ホ。オキタラハ。志。 置足 氏。

考云。置座ハ右の加奈伎^{カナキ}ノ木工寮式^{カキ}の。八座置四座置^{カキ}條^{カキ}。
以^{カキ}木^{カキ}為^{カキ}之^{カキ}。長者^{カキ}二尺四寸。短者^{カキ}一尺二寸。各以^{カキ}八枚^{カキ}為^{カキ}東^{カキ}。
名稱^{カキ}八座置^{カキ}。長短各以^{カキ}四枚^{カキ}為^{カキ}東^{カキ}。名稱^{カキ}四座置^{カキ}。といふ。ハ。そ
ろハ割木^{カキ}を用ひし。上代^{カキ}ハ。楮^{カキ}木^{カキ}用ひし。かりし。あ。か。邪
本^{カキ}といひ。なり。さ。ど。け。式^{カキ}。依^{カキ}。上代^{カキ}の置座^{カキ}。形^{カキ}。を。知^{カキ}。べき。
置足^{カキ}。といふ。ハ。贖物^{カキ}。を。い。多く。金^{カキ}。を。い。非代^{カキ}。紀^{カキ}。小^{カキ}。科^{カキ}。之^{カキ}。以^{カキ}。千
座置^{カキ}。戸^{カキ}。遂^{カキ}。促^{カキ}。徴^{カキ}。矣^{カキ}。云^{カキ}。と。つ。る。是^{カキ}。後世^{カキ}。ハ。罪^{カキ}。の。ま。り。け。り。
い。より。て。被柱^{カキ}。を。お。さ。さ。り。上^{カキ}。つ。被^{カキ}。下^{カキ}。つ。被^{カキ}。ど。い。ひ。く。贖物^{カキ}。の

敷^{カキ}。り。ま。か。れ。さ。り。つ。る。さ。り。く。ハ。格^{カキ}。式^{カキ}。り。又^{カキ}。え。り。

○後釋。置座ハ。く。れ。か。り。る。被物^{カキ}。を。取^{カキ}。集^{カキ}。を。居^{カキ}。到^{カキ}。を。居^{カキ}。形^{カキ}。ハ。
本^{カキ}。工^{カキ}。寮^{カキ}。式^{カキ}。の。依^{カキ}。也^{カキ}。バ。考^{カキ}。い。れ。る。ま。り。く。細^{カキ}。き。本^{カキ}。此^{カキ}。本^{カキ}。未^{カキ}。を。切^{カキ}。り。る。所^{カキ}。
束^{カキ}。ね。て。結^{カキ}。し。る。物^{カキ}。と。ゆ。ふ。ま。り。く。さ。り。ハ。さ。り。物^{カキ}。を。い。り。の。も。ほ。く。形^{カキ}。さ。り。べ
い。ハ。物^{カキ}。を。置^{カキ}。臺^{カキ}。ふ。と。なり。が。さ。り。る。べ。い。ハ。さ。り。本^{カキ}。工^{カキ}。式^{カキ}。の。記^{カキ}。さ。り。る。
ま。後^{カキ}。の。ま。り。て。い。は。る。ま。り。の。か。さ。り。り。げ。ゆ。を。物^{カキ}。さ。り。る。べ。い。上^{カキ}。代^{カキ}。の。置座^{カキ}。ハ。
別^{カキ}。の。造^{カキ}。り。さ。り。る。方^{カキ}。き。じ。ま。り。あ。り。細^{カキ}。き。本^{カキ}。と。さ。り。る。編^{カキ}。て。机^{カキ}。さ。り。る。
や。く。造^{カキ}。り。る。所^{カキ}。も。有^{カキ}。り。さ。り。る。ま。り。く。ハ。知^{カキ}。ぐ。く。ハ。千座^{カキ}。と。ハ。その
置座^{カキ}。の。敷^{カキ}。の。ま。り。さ。り。る。置足^{カキ}。波^{カキ}。志^{カキ}。と。ハ。ま。り。備^{カキ}。を。い。は。る。ま。り。て。被物^{カキ}。と。い
ふ。ま。り。さ。り。る。置^{カキ}。台^{カキ}。何^{カキ}。物^{カキ}。を。あ。く。ふ。ま。り。さ。り。る。ま。り。と。ま。り。あ。り。る。ま。り。さ。り。る。
上^{カキ}。の。許^{カキ}。い。る。久^{カキ}。乃^{カキ}。罪^{カキ}。出^{カキ}。武^{カキ}。と。つ。る。ま。り。お。の。く。その。被物^{カキ}。を。お。さ。り。る。ま。
い。ら。ぐ。ま。り。ゆ。い。ら。ぐ。ま。り。さ。り。る。ま。り。の。づ。く。ま。り。被物^{カキ}。を。お。さ。り。る。ま。り。ゆ。い。ら。ぐ。ま。

臨_テ禊_ニ詞_ヲ及_ニ八張_ニ解_キ繩_ヲ了_テ禊_リ云_ク又平野祭小宮主奉仕_ニ
被_レ詞_トし_テ取_テの細書小_ニ到_リ被_レ清_ク之_ニ處_ニ以_テ人形_ヲ令_レ吻_レ給_テ到_リ中臣_ト
被_レ詞_ト字_ハ八張_ニ取_リ割_キ之_ニ處_ニ解_キ繩_ヲ給_テ畢_ニ宮主退出_トし_テ了_ル
ハ中_ニ古_ノ陰陽師_ヲあ_が附_クへ_ル事_ト是_レ也_ト凡_レ後代_ノ人_ノ皇_ノ
朝_ノ古_ノ書_ヲを_バよく_ト見_ル事_トお_まい_りか_る必_ズ書_ヲ見_テみ_ぎ
ふ_事を_バ附_クせ_ル乃_チ泥_ヲを_バお_ろす_事古_ノ代_ノ強_クなり_か書_ヲ見_テ
し_テた_とよ_クお_まい_りべ_シま_り
べき_事なり_とし_テ了_ル

天津祝詞 乃 太祝詞事 平 宣 礼

考云事ハ言ハた_ル事_ト言_ハ字_ト事_ト字_トお_まい_りし_テの_コ
と_シて_ハ大_ニ被_レ詞_ハ既_ニい_りた_ル事_ト言_ハ字_ト事_ト字_トお_まい_りし_テの_コ

と_シて_ハ代_ノの_コ代_ノの_コと_シて_ハ奉_ル事_ト言_ハ字_ト事_ト字_トお_まい_りし_テの_コ
宣_ハ詔_ノ賜_ノ言_ハ准_ヘる_事天_ノつ_のの_コと_シて_ハい_りた_ル事_ト言_ハ字_ト事_ト字_トお_まい_りし_テの_コ
の_コ詔_ハ神_ノ語_トと_シて_ハ即_チ此_ノ詞_ヲを_バ道_ノ食_ノ誌_ノ火_ノの_コ系_ヲを_バト_シて_ハ
の_コ中_ニ以_テ詞_ヲも_ト文_ヲを_バ後_ニを_バ事_トハ_レ代_ノ乃_チ傳_ノの_コ事_トお_まい_りし_テの_コ
詞_ノ太_ニ祝_ノ詞_事と_シて_ハ知_レべ_シ事_ト是_レ也_ト大_ニ中_ニ居_ルと_シて_ハ置_キ
座_ヲあ_がり_テ御_座奉_ル事_ト祝_ノ詞_ヲ宣_ハる_事と_シて_ハ大_ニ中_ニ居_ル乃_チ下_ニ
小_ニ在_リて_ハ被_レの_コ事_トを_バト_シて_ハ知_レべ_シ事_ト是_レ也_ト大_ニ中_ニ居_ル乃_チ下_ニ
む_事お_まい_りし_テの_コト_シて_ハ被_レを_バお_ろす_事ハ_レ大_ニ中_ニ居_ル乃_チ下_ニ
了_ル事_ト定_ル事_ト是_レ也_ト上_ニ代_ノハ_レ詞_ヲを_バお_ろす_事古_ノ事_ト記_ス日本_ノ紀_ノ
及_ニ其_ノ事_トも_ト代_ノの_コ中_ニ居_ルと_シて_ハ忌_ノ幼_ノの_コ神_ノ祖_ノから_テ猶_レ也_ト
此_ノ事_ト也_ト此_ノ文_ハ上_ニ代_ノの_コ事_ト也_ト書_クれ_ル事_ト也_ト當_レ時_ニ也_ト
中_ニ居_ル人_ノ貴_クて_ハ下_ニ目_ノも_ト也_トハ_レ世_ノを_バお_ろす_事也_ト大_ニ中_ニ居_ル乃_チ下_ニ

名を石真門イハマドと申は此也。伊頭乃千別イノチノチル云々ハ下野伊
 總理ボリ手搔別カキマテと曰ふ心へうり。但一チ千別チノチをうかハワウウ
 心はな河心。所聞食武も大申は宣申以此後イハレノチの祝詞をまき
 一ヒと一ヒいとむとつあし。

國津神 波。高山之末短山之末 上坐 貞。

考云短山をみどり山と訓まようは一ヒかづむと。荷田大人のつと
 まし。まきふみどり山とつとふハねし。所考ふ古事記ハ如具土神
 の殺さし身ハつチの山はもとまき。頭ふねとハ正鹿山つチの神。
 次ハ胸ふねとハ。淤騰山つチの神と云々。然とハ短山ハ淤騰山
 ふうと云ハ。然訓を一ヒ末ハ山の上。林鹿を山本とつとり對つり。
 ○曰乃云云高を低きふ對ひ。短と長きふ對ふと云々。さうふさ

山ノ對へく。短山と云はみどり山とハよまぬことと云々。古人の事。
 ○後釋。短山を字はす。小美ミ自ジ加カ夜ヤ麻マと訓べし。さねに對へてみ
 どりといふ。中考はさ。考賤をさきみどりといふ。さ
 く。原氏和歌。位みどか。さ。つ。ほ。は。何。海。砂。位。卑。選。叙。令。と
 考。それより。今。昔。昔。本。お。然。が。訓。を。き。ん。又。書。紀。天。智。少。を。う。早
 地。を。み。ど。り。と。云。は。と。訓。を。さ。ね。に。つ。と。り。と。云。は。右。と。云。は。低。き。を。み
 どりといふ。考の説はさ。さ。ね。に。右。お。低。き。を。み。ど。り。とい
 ぬ。さ。ね。に。何。の。よ。う。短。山。と。ハ。ま。き。漢。文。ハ。高。と。短。と。對。へ。い。つ。か
 例。も。な。き。ふ。短。と。云。は。右。と。云。み。ど。り。や。さ。か。り。が。あ。じ。物。を。さ
 短。山。と。か。く。ハ。み。ど。り。と。ハ。な。ぬ。こと。と。云。は。さ。ね。に。ハ。う。う。う。ハ。乃。遠
 し。と。云。は。祝。詞。の。文。ま。ハ。さ。ね。に。訓。を。き。さ。う。ふ。さ。る。物。を。さ。万。葉。歌。紀
 ち。を。ね。と。い。ひ。つ。と。り。義。理。を。さ。ね。に。つ。と。り。な。さ。げ。ま。さ。こと。ハ。ち。う。

おろろおろろいりりいりせしおの保も布も今ハみろりて唱
あまざとちま皆後一ふや万葉おまろハ馬舌の飯をよ用し
己れとバ此伊穂理の穂も後てよびまろりて居るもりりかじ
まて上の八重を別とつひろふかくいてまろりかや歌の物入
まろりて障るまろりけまろりてまろりかや一まろりて
あり又山の上坐てとつろりまろりてまろりてハ酒のよく聞ゆるか
なり又まろりてのまろりても足もろりて短山も
いつまろりて古語の文ろりて下ろりてまろりて

如此所聞食波。

後釋氏波を而有者たまて波を留るこ下ろりても皆同じ此
辞万葉おまろりて居るの波を別とつひろふかくいてまろりて

皇御孫之命乃朝廷乎始氏。

考云みろりてハ先王宮城門の内をいつてろりてハ京城門の内まで
兼云とまろりてろりてまろりていへまろりて

○後釋朝廷ハもろりて朝廷もろりて考云京城つろりてまろりてハ
まろりて美加度といふ名ハもろりてハ大宮也伊門より出ること
まろりてたろりて朝廷の字たまろりてまろりてろりてまろりて
まろりてろりて伊門のまろりてまろりてろりて朝廷乃内乎始氏とい
まろりてまろりて伊門乎といひまろりて伊門のまろりて

○大被詞後釋下

天下四方國 アマノシタヨモノクニニツミトイフツミハアラジト 罪止云 布罪波 不在止。

考云。佐人乃罪の多かぬと云ひ。被柱をさして。云つ傳へ乃
まゝ。太詔戸言波宣らば。天地乃あけ神とらぬ。ふまゝ。給ひ。
うつまひ給ひ。給ひ。被ひ。捨身條して。流る物と共
ふみ。失て。今よ。後。云。乃。あ。ま。な。罪。を。つ。じ。と。し。

○後釋。罪止云。布罪波とハ。罪と云。か。り。け。罪。ハ。二。つ。も。の。こ。じ。悉く
といふこと。不在云。皆消去して。の。り。け。し。こ。こ。こ。此。大。被。を。百
官。は。ま。ま。云。下。ま。ま。ハ。つ。あ。な。き。あ。ら。ざ。に。云。下。四。方。を。ま。ま。
を。つ。つ。ハ。よ。あ。も。つ。つ。ご。け。祝。詞。を。云。下。乃。大。被。の。祝。詞。を。云。
百。官。は。大。被。の。祝。詞。も。その。中。に。兼。用。ひ。し。ゆ。め。上。ふ。成。出。武。天
く。益。人。等。我。云。く。を。つ。つ。と。云。下。乃。あ。ま。の。民。を。つ。じ。り。

科戸之風 乃。

考云。紀。伊弉諾尊曰。我所生之國。唯有朝霧而薰滿之。
哉。乃吹撥之。氣化為神號。曰。級長戸邊。命。亦曰。級長津彦。
命。是風神也。と。つ。を。以。て。後。乃。あ。ま。の。風。と。ハ。い。は。し。め。し。○。同。は。
書。云。事。と。累。ま。り。科。戸。之。風。と。い。は。し。め。上。代。乃。言。ひ。ぬ。一。つ。の。佐。と。

○後釋。考。乃。あ。ま。の。風。と。い。は。し。め。上。代。乃。言。ひ。ぬ。一。つ。の。佐。と。
此。名。也。乃。り。こ。も。考。と。い。は。し。め。累。ま。り。と。い。は。し。め。て。神。の。名。も。
あ。ま。の。り。て。省。は。て。中。代。上。代。と。い。は。し。め。つ。つ。こ。こ。少。名。昆。古。那。神。と。
神。功。皇。后。乃。乃。乃。須。久。那。美。迦。微。と。い。は。し。め。つ。つ。が。あ。ら。し。め。その。
久。名。也。科。戸。乃。乃。乃。風。神。と。い。は。し。め。つ。つ。を。神。は。名。乃。負。せ。ま。
乃。り。こ。も。考。と。い。は。し。め。こ。こ。此。神。名。古。事。記。ハ。志。那。都。比。古。と。い。

さつふ。後、中々、云々の如くといふを、あつふ。奉る。四つ、の、
み。さ。あ。事。の。如。く。と。事。之。と。い。ふ。を。伏。席。で。ひ。た。る。古。語。乃。
偽。し。古。書。ど。も。あ。お。乃。と。い。ふ。に。あ。る。を。見。後。し。て。知。べ。し。
ま。そ。う。ふ。か。く。あ。ら。う。と。い。ふ。は。あ。ら。う。と。い。ふ。を。あ。ら。う。と。い。ふ。
奉。る。と。い。ふ。は。被。り。と。い。ふ。を。被。り。と。い。ふ。を。あ。ら。う。と。い。ふ。
ふ。の。の。り。お。き。と。い。ふ。は。あ。ら。う。と。い。ふ。を。あ。ら。う。と。い。ふ。
又。あ。ら。う。此。決。く。濃。織。は。比。咩。と。い。ふ。速。佐。須。良。比。咩。と。い。ふ。ま。で。の。
四。つ。の。事。は。あ。配。あ。ら。う。と。い。ふ。も。あ。ら。う。と。い。ふ。と。い。ふ。科。元。の。風。の。う。へ。大。海。
系。小。持。出。た。は。あ。ら。う。と。い。ふ。繁。本。が。あ。ら。う。と。い。ふ。失。ふ。を。
あ。ら。う。此。壁。と。い。ふ。あ。ら。う。と。い。ふ。あ。ら。う。と。い。ふ。あ。ら。う。と。い。ふ。四。つ。

ノコルツミハ アラジト
遺罪 波 不在 止。

後釋。遺。と。能。許。流。と。判。べ。し。の。こ。ま。と。い。ふ。は。あ。ら。う。と。い。ふ。上。り。罪。
止。云。罪。波。不。在。止。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
ま。り。て。は。あ。ら。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
又。い。ふ。古。語。の。例。あ。ら。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
飛。ハ。と。い。ふ。上。り。罪。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
あ。ら。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

ハラヒタマヒ キヨメタマフコトヲ
被給 比 清給事 乎。

考ふ。物をようとて、給を給とつ。

○後釋。考ふ。物をようとて、給を給とつ。又、他。あ。ら。う。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

らふこといされも。そのふんね況じ。こまの給といふ言乃は
くひもぬ。程よく考へて定むべし。そのねどハ公事ねど。上より被
ひはめ給ふと見え。バ。世の中。何とハ。何とぞ。世の中。何とぞ。
事乎。この事ハ。法人の犯し。る罪事。をさす。いふじ。つ。ふ。く。ね。く
居て。いふ事。ふ。何とぞ。む。世。罪事。と見え。れ。む。下。大。海。系。系。持
出。奈。武。ま。可。く。吞。氏。年。ね。ど。い。ふ。ふ。ね。を。ん。を。つ。き。て。見。べし。

高山末短山之末タカヤマノスエミジカヤマノスエ 理與

考云。二。び。く。い。ひ。て。事。決。終。き。る。文。の。例。し。
○後釋。考。其。説。も。づ。り。こ。も。言。ハ。は。ど。り。と。い。は。る。を。二。
び。い。つ。例。り。ハ。何とぞ。上。と。い。異。り。す。せ。て。い。う。か。も。何とぞ。あ。ら。う。
く。な。り。お。も。さ。や。

佐久那太理サクナダリニ 尔。

考云。唐。唐。唐。唐。の下。ふ。り。つ。て。久。那。の。如。加。ら。れ。逆。垂。し。
○後釋。唐。唐。唐。唐。の。山。々。乃。自。狭。久。那。多。利。尔。下。賜。
水。乎。と。何とぞ。佐。久。那。の。例。の。ま。り。て。真。下。垂。し。川。を。何とぞ。山。より。流。る。こ。も。な。
を。い。つ。り。ま。り。何とぞ。何とぞ。久。良。も。多。尔。と。い。ふ。久。良。と。久。
那。多。尔。ハ。多。理。と。共。ふ。ら。も。づ。り。より。物。る。名。こ。谷。を。久。良。と。い。へ。
承。し。古。事。記。傳。五。箇。淤。加。美。神。の。延。ふ。委。云。海。が。こ。り。美。奈。七。七。ふ。
久。良。多。尔。と。何とぞ。も。久。那。多。理。と。何とぞ。も。谷。の。こ。り。又。神。名。帳。
何とぞ。近。江。國。栗。太。郡。佐。久。奈。度。神。社。を。櫻。谷。と。い。ふ。を。以。て。も。久。
那。と。久。良。と。何とぞ。き。こ。と。知。べ。く。又。此。社。を。勢。多。り。り。二。里。ば。り。下。
鹿。鹿。と。い。ふ。取。の。海。の。岸。口。何とぞ。東。の。岸。何とぞ。何とぞ。何とぞ。何とぞ。

シホガノシホノヤホアヒニマヌ
鹽道之鹽乃八百會尔座須。

考云大海のちうは澳小潮道といふまで、船よりも疾て東への流とい
いつりそな何ふ公も有べしと、八百舎まで、ハ知んばうぬを、棲摩那
島と、そ後日向島の船道のり、舎以て、地を、もしも、べき、會と
つと、州べし、後人、とよむ、ハ、字、考、て、さ、さ、し、○、曰、云、云、荒
荒、ハ、荒野、ま、り、曰、く、昔、船、道、て、生、船、が、つ、つ、物、よ、つ、あ、塩、ハ、船、を、
わ、つ、つ、船、ハ、二、つ、ち、小、船、の、こ、し、も、く、南海、の、船、道、へ、あ、る、船、
あ、る、う、り、船、を、つ、つ、ふ、か、つ、て、此、も、ハ、八、丈、が、船、あ、る、と、バ、く、あ、く、此、船、
ハ、家、を、ハ、令、生、家、者、も、さ、く、ハ、難、く、さ、さ、り、ハ、船、人、信、を、さ、
○、後、釋、ハ、百、道、と、ハ、潮、道、の、ま、く、つ、つ、船、の、海、乃、内、ハ、く、あ、
か、こ、お、り、許、多、た、船、さ、さ、さ、べ、現、お、つ、あ、ら、る、船、さ、も、あ、く、の、海、お、こ

と、か、道、つ、中、お、伊、豆、島、ら、り、八、丈、嶋、へ、船、海、中、お、つ、船、道、を、さ、さ、
町、ご、り、が、ほ、ど、い、み、く、あ、く、東、へ、船、と、さ、文、記、を、慈、舟、南、の、澳、小
と、ま、て、東、へ、船、と、つ、つ、あ、か、の、八、丈、の、さ、さ、さ、さ、く、は、く、さ、さ、や、ら、ん、
八、塩、道、と、ハ、上、の、塩、乃、八、百、道、を、く、け、を、稱、て、い、つ、し、上、ハ、八、百、と、い、ひ、く、
こ、お、ら、ハ、ハ、と、の、い、つ、ハ、さ、く、遠、く、め、く、あ、る、船、さ、く、ハ、と、の、い、つ、あ、
さ、ハ、八、丈、も、ハ、百、丈、も、ハ、千、丈、と、さ、り、り、て、さ、ら、ん、バ、ハ、百、塩、道、と、い、つ、り、曰
く、ハ、八、百、舎、と、ハ、八、百、の、塩、を、集、り、舎、を、い、つ、あ、く、の、潮、さ、さ、り、
船、道、と、ハ、潮、の、一、つ、廻、り、集、舎、を、海、の、底、へ、卷、没、さ、す、と、い、つ、
文、く、曰、く、さ、ら、る、船、と、い、つ、ハ、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、
さ、く、さ、く、上、つ、代、の、文、お、て、さ、ら、あ、後、昔、人、の、か、ま、さ、し、も、及、ば、な、さ、ぬ、お、て、い、つ、も
い、つ、も、雅、く、さ、さ、く、さ、く、さ、く、味、を、て、古、文、の、み、や、お、や、ら、ら、な、さ、く、さ、
さ、ら、べ、し、さ、ら、る、船、と、い、つ、ハ、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、
さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、

○大夜後釋下

ハヤアキヅヒメトイフカミ
速開都比咩止云神。

考云古事記云伊邪那岐命此被一給命正冠を棄給ふ所生神
名ハ飽咋アキヅヒのうしの神とつるも物とまどとよとつじ。同大津生水
戸神ツラハ名速秋津日子神次速秋津比賣神とつる。是をるべし水戸ハ
水の門ミナト也。川の海へ入る。開く取らる。取らる。開くといふは。つるたつむ
とそ。その川もと。昔は。下流物を。遊ま。た。ふ。く。あ。そ。は。て。は。乃
往會キヤウ也。取らる。て。底へ。た。れ。つ。て。此神の。吞。といふ。は。此神と。
ミナトの。み。た。往。至。る。限。知。坐。よ。う。あ。は。乃。ハ。百。舍。坐。とい。つ。て。し。
○後稷。こ。ろ。か。の。伊。禊。修。ふ。坐。依。伊。豆。能。賣。神。こ。の。伊。豆。を。阿。
伎。豆。の。切。り。と。ら。る。名。あ。て。申。う。た。速。秋。津。日。子。神。速。秋。津。日。女。神。と
同。神。也。秋。と。借。字。あ。て。明。づ。の。と。あ。て。明。と。ハ。禊。小。より。て。修。く。ふ

清まりとて。此は名こ。と。は。乃。給。委。ま。き。る。ハ。古。事。記。傳。五。の。ま。え
ニ。の。ま。え。小。と。と。ば。こ。ち。り。り。せ。り。と。て。速。秋。津。日。子。日。女。二。粒。神。ハ。古
事。記。云。水。戸。神。と。つ。る。を。ろ。小。塩。乃。八。百。舍。坐。とい。つ。ハ。づ。く。處
は。づ。い。と。と。と。も。も。も。は。海。き。よ。う。を。い。は。潮。々。ハ。百。舍。ハ。此。頭。國。の。海
上。の。堺。也。根。國。乃。方。へ。潮。の。没。往。門。口。也。と。又。彼。方。は。水。戸。之。
也。乃。水。戸。と。川。より。海。へ。た。つ。は。口。也。乃。ハ。百。舍。ハ。海。より。入。て。根。之。方
へ。た。つ。出。る。口。也。と。此。方。也。川。より。出。る。也。と。彼。方。へ。出。る。也。と。の。差。こ。と。あ
は。れ。共。小。同。ト。く。水。戸。也。古。傳。の。飯。の。ゆ。る。こ。が。く。は。と。と。と。と。と。味
ぬ。を。し。考。水。門。と。川。の。海。へ。入。る。開。く。取。ら。る。と。い。は。れ。ハ。開。ハ
し。は。信。字。あ。て。明。の。ま。え。を。や。又。海。の。ま。え。く。わ。て。は。て。と。い。ひ。水。
門。の。み。の。行。至。限。知。坐。あ。て。い。は。れ。と。ハ。水。戸。神。と。つ。る。と。乃。乃。八。百
舍。坐。と。つ。る。と。い。は。れ。と。處。の。異。字。を。考。て。一。つ。小。説。合。う。ん。と。て

○大被詞後釋下 ○八八

のちしてし。よそハ水戸、津、少々、つらば。海、津、又八百、第、尔、坐、之、
つら、坐、り、も、か、る、り、る、り、を、や、よ、そ、け、津、の、名、式、の、本、り、ハ、
比、字、な、り、が、の、伊、豆、能、賣、も、し、や、賣、好、也、は、く、も、も、つ、り、咩、ゆ、り、と、
つら、べ、り、と、ど、秋、津、比、賣、と、つら、あ、く、比、賣、し、と、の、う、へ、る、も、前、後、の、
淑、識、は、比、咩、佐、須、良、比、咩、み、ら、比、咩、あ、り、バ、そ、も、考、れ、本、比、咩、と、
せ、ら、せ、り、ら、あ、依、ら、る、私、の、本、ぞ、と、も、い、ふ、も、私、先、と、り、り、

持可可吞 モチカ、ノミテ
武 武氏

考、云、持、を、持、く、信、る、る、と、し、津、代、紀、を、も、例、多、し、可、ハ、ハ、を、吞、
多、し、と、べ、り、物、を、吞、ゆ、を、か、む、多、に、つ、ら、く、と、の、む、か、り、く、と、か、む、
あ、ま、つ、い、け、難、多、し、了、案、ハ、尾、は、取、か、加、カ、鳴、就、考、と、ら、る、も、鳴、
を、此、か、つ、く、と、す、る、と、い、り、津、を、本、比、哥、と、ま、る、ふ、り、り、て、或

人の言、後、を、辞、ふ、り、て、弟、茶、お、あ、ま、り、あ、り、を、信、る、ふ、
か、り、り、ら、い、後、の、お、後、ま、ふ、も、か、り、り、を、信、る、い、つ、か、あ、い、ド、と、い、つ、
を、雅、う、ハ、り、と、ど、お、な、ハ、上、ふ、も、あ、け、持、と、い、ふ、下、ハ、ま、べ、く、と、あ、
ら、む、と、ま、か、可、く、ニ、ま、と、せ、る、あ、依、べ、し、○同、頭、ま、ま、又、哥、と、い、て、助、
辞、し、も、い、ら、し、う、可、江、助、辞、あ、る、信、あ、し、次、の、如、此、と、い、ふ、下、ハ、
付、お、後、も、助、辞、も、有、べ、き、ら、う、が、可、く、と、い、て、吞、き、し、と、い、あ、を、
俗、と、思、ふ、人、も、ま、べ、り、と、ま、べ、り、の、あ、る、多、に、つ、ら、雅、俗、ハ、あ、し、
は、り、つ、ま、き、喉、の、お、を、よ、と、と、わ、く、と、い、ひ、き、く、や、ふ、お、あ、を、
か、く、く、と、い、つ、ら、と、い、つ、ら、く、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、と、あ、り、
か、も、雅、此、難、と、い、ら、し、

○後、釋、可、ハ、鈴、野、群、裁、お、客、く、と、ま、き、次、ら、る、も、加、く、と、ま、り、
式、の、本、比、哥、と、り、り、ハ、後、お、実、信、ら、る、り、の、こ、も、可、い、れ、と、ハ、考、乃、從

のめし。はふ入声。まきも月ひて。客とらもあなも。吞。まて。かく
くふ。近きが。あし。まて。被物。を。潮。く。と。あ。海。の。底。へ。ま。き。つ。て。ハ。実
あ。此。種。は。吞。れ。あ。し。ゆ。漢。籍。の。い。ち。も。寓。言。は。め。く。ん。於。そ。ハ。や
ま。ま。し。も。ま。し。い。あ。う。く。び。そ。ハ。傍。の。ね。ま。さ。か。し。き。か。う。ん。じ。よ。そ。ゆ。吞。れ
む。く。頭。國。の。冠。釋。の。除。り。は。ま。る。こ。と。伊。豆。能。賣。神。ふ。正。く。當
ま。り。ま。か。古。事。記。傳。の。卷。此。種。の。下。は。考。へ。る。ま。理。を。ま。べ。し。

如此 ^カ ^ク ^カ ^ノ ^ミ ^テ ^イ ^ブ ^キ ^ド ^ニ ^マ ^ス
可可吞 波。氣吹戸坐 須。

考云。物を吞てハ。息吹。まき。り。の。ま。あ。ふ。か。く。い。り。此。ま。ハ。橘
の。小。門。か。し。て。入。水。吹。生。磐。土。命。と。つ。る。ゆ。ぢ。と。り。あ。ま。し。
○後釋。戸ハ處。し。處。を。斗。と。云。傍。ま。し。ま。て。氣。吹。戸。と。ハ。此。氣。吹。戸。主
神。の。諸。乃。冠。釋。を。い。ぶ。き。放。ち。や。ま。れ。あ。處。の。う。ぢ。り。を。ま。べ。し。

い。ま。ふ。て。ま。ど。を。被。つ。物。を。川。か。流。し。棄。け。た。り。て。終。り。根。を
ふ。ま。ま。で。は。ら。ふ。ぢ。り。く。ま。ま。名。し。坐。と。い。つ。ハ。氣。吹。戸。と。い。ふ。所。ハ。
一つ。つ。ご。す。め。ま。ま。ど。も。ゆ。ぢ。り。と。上。の。二。つ。の。傍。の。ま。ふ。坐。と。ハ
い。つ。ま。し。別。ふ。ゆ。云。所。の。二。つ。つ。ら。ま。つ。ぢ。り。そ。ハ。か。の。早。川。の。漱。石。の。ハ
百。舍。根。ふ。ぢ。り。と。い。ふ。ハ。名。は。ま。異。り。ま。す。氣。吹。戸。と。い。ふ。べき。所。を
い。づ。く。ふ。り。ち。ま。き。波。吹。て。も。知。ぢ。り。ゆ。ぢ。り。あ。ま。し。い。ち。を。合。ま。て。ん。於
べき。し。考。ふ。物。を。吞。て。ハ。息。吹。ま。き。り。の。ね。ま。さ。か。し。き。か。う。ん。じ。よ。そ。ゆ。吞。れ
とし。こ。ハ。吞。を。連。言。は。ぬ。の。事。氣。吹。放。ま。い。ぶ。き。と。主。神。は。ま。ふ
て。別。ま。る。ま。や。但。し。語。の。つ。ぎ。に。ま。る。は。か。ふ。ま。あ。ハ。あ。の。づ。う。り。り
あ。ま。る。文。の。ち。や。け。み。ま。ま。と。磐。土。命。は。ま。あ。れ。と。ま。も。吹。生。と。あ
ま。言。ハ。よ。う。う。ぢ。り。ど。か。の。神。を。ま。つ。づ。く。ま
ま。た。う。り。あ。り。し。ま。が。あ。べ。く。ぢ。り。

イ ブキド ヌシトイフカミ

氣吹戸主 止云神。

後釋此神も倭姫命世記小多賀宮一座豊受荒魂也伊特
那伎神所生神名伊吹戸主亦名曰神直日大直日神と
云ふなり多賀宮も伊勢外宮の別宮高宮也是と豊受荒魂と
いふは心持経ど伊吹戸主を直毘神といひ居るハ後古人も
小思ひよりオドきり妙色バこも必すたき付伝るべし云ふ正しく
かゝる神くつと云ふなりと云く直毘神の事ハ古事記傳六の卷
伊禊後小委く云とバ考へて云べし是名氣吹主といふ也
て氣吹戸主と云ふも上も子川の瀬に坐すて塔の八百舎に坐す
といふ傳の事あり是と氣吹戸主坐といふなり戸主と云ふ事
依て稱をせざるべし或人問く此伊那那岐大神の所禊也此神

ち此生坐依る先づ禍津日次直毘神次伊豆能賣也是次也
事の類より云々如きへ云云と云ふと氣吹戸主なり直毘神なり
瀬に比咩の次も氣吹戸主次速禰は比咩なり是も此二神の所
なり此神の如き方なりハ云々答す所被申す禰乃除くり居る
次也初瀬に比咩は子川の瀬なり大海系も持出さし此も大海系
を經て塔の八百舎に坐す此氣吹戸主神のつぎ放ちておく
るやと云ふ事也此も速禰は非の吞路也此は云々此は禊也生坐依
る神と云ふ事なり此も氣吹戸主なり此は瀬に比咩の次も云
ふハ後云々云々あり累々ありのしり此も云々大海系の
事なりと云ふ事也塔の八百舎までハ何事の神の所なりやと云
ふ事也持出奈武といひて次ハ如此持出往波と往す言を
へつと云ふ事と云ふべし瀬に比咩の事ハ持出るまで云ふ事

被の主とつゝ死する。考は能く考へてかく。煙忽くたふぶりや。其
寓言といふ所のごとく。さうさうさうさうや。や。や。や。や。や。や。や。や。

根國底之國 ネノクニソコノクニ 氣吹放 イブキハナチ

考云。根と底とハ同ドきを。二ついつや。文に古事記ハ須佐之男
命云々。僕者欲罷妣國根之堅洲國。す。神代紀一書ハ
同根也。汝所行甚無頼云々。宜急適於底根國。乃共
逐降去矣。

○後釋。之國の下。ハ字ハ式の本。上の神。字は下。ハ。錯
と。根國底之國。即黃泉國。古事記傳ハ委くいつり。
そ。中ハ凶事ハ。皆りや。若。若。若。若。若。若。若。若。
を被禊。その罪。罪。罪。罪。罪。罪。罪。罪。罪。

る。おて。被禊。事。事。事。事。事。事。事。事。納。納。納。納。納。納。納。納。
此。此。此。此。此。此。此。此。凶。凶。凶。凶。凶。凶。凶。凶。
へ。へ。へ。へ。へ。へ。へ。へ。凶。凶。凶。凶。凶。凶。凶。凶。
き。き。き。き。き。き。き。き。氣。氣。氣。氣。氣。氣。氣。氣。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。此。此。此。此。此。此。此。此。
ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。凶。凶。凶。凶。凶。凶。凶。凶。
は。は。は。は。は。は。は。は。此。此。此。此。此。此。此。此。
神。神。神。神。神。神。神。神。古。古。古。古。古。古。古。古。
き。き。き。き。き。き。き。き。川。川。川。川。川。川。川。川。
は。は。は。は。は。は。は。は。一。一。一。一。一。一。一。一。
皆。皆。皆。皆。皆。皆。皆。皆。凶。凶。凶。凶。凶。凶。凶。凶。

處に功ありてかく名をかせざる。古きをゆゑ文ある文といふ
 物を言ひぬく。さうして惑つたはあらし。

○後釋さきさうひうし。おちかたかたさうし。まげまを。亡びひあふ
 なる。流離などの字を例にまことし。俗傳を例に。但しけ言ひつひ
 なる。さうとかの業神化の流離と。自他の遠ひあはき。此祝詞は古文を
 述べて。河正一とまへ。此佐須良比咩ハ須勢理毘賣おて。まは
 ち。被ぬち由縁なきがぬく。あざざと。さうし。保きゆゑさうし。つるさうし。
 そハさう。氣吹戸主の根。まへ。いづき。放や。は。おとて。被の事ハ。竟
 て。此比咩神は。さうし。ひさひあふ。その被の験を。まは。おとて。ま
 かり。あうの。柱の神の中。此神の。まは。お。伊邪那岐大神の。禊
 お。坐。家。神。お。つ。る。ま。ま。禊の。験。お。坐。坐。坐。貴。貴。貴。須。依。依。依。男。女
 神の。お。女。こ。こ。こ。又。保。ま。理。こ。こ。こ。ま。ま。ま。の。ま。父。須。依。依。依。男。女。神。又

被ふりて。飛禊法まりて。ま。お。大功を。ま。ま。ひ。ま。未。大。國。主。神。と
 一。先。ま。ま。ま。八十神の。福。事。お。遇。あ。ひ。一。根。お。至。坐。て。け。須。勢。理
 毘賣。命。お。娶。坐。げ。比。賣。神。の。お。ま。ま。ま。ひ。お。ま。ま。ま。頭。國。お。ま。ま。ま。ま。
 ま。ま。ま。ま。ま。大功を。ま。ま。ま。ま。け。先。神。の。人。民。の。飛。禊。を。ま。ま。ま。
 ら。ひ。ま。ま。ひ。ま。福。を。ま。ま。ま。事。の。お。り。ま。ま。運。を。全。く。ま。ま。ま。ま。
 あ。ま。一。大。國。主。神。と。此。お。め。神。と。共。お。禊。禊。坐。坐。坐。須。依。依。男。女
 神。は。お。後。ふ。い。く。夫婦。と。お。り。て。此。功。を。ま。ま。ま。又。保。ま。ま。ま。
 ま。ま。ま。一。ま。ま。ま。ま。中。お。凶。事。ハ。ま。ま。ま。先。ま。ま。の。ま。ま。ま。記
 事。は。け。大。ま。ま。神。の。禍。事。お。ま。ま。ま。ま。ま。ま。至。ま。ま。ま。ま。ま。
 そのま。ま。の。初。乃。よ。み。の。ま。ま。一。還。ま。ま。ま。被。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 て。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。命。乃。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。功。を。ま。ま。ま。
 一。先。ま。ま。ま。ま。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。禊。禊。禊。禊。禊。禊。禊。禊。禊。禊。

小主神のよみのまゝに御魂のつらねひく功を立給るま
 での神代の修め御魂を以て被りむの始めあることとさるべ
 し。考ふ右の神ももらぬ名は古書に記しあるはききいれ
 たるは概しつらねを以て神のまことぬもはく功として
 神の好し給ふ功あまはくは名も神坐をばき神ハいつと
 神と考へるはつらねハ御魂のまことぬもはく功として
 古事記にも記ありしは神のつらねもはく功として餘の
 三神神ももらぬ名は古書に記しあるはききいれ
 久事代に書ありしは神のつらねもはく功として
 の文ありしを以て書く人乃新小神名を造りしなるはつ
 となりしはつらねもはく功として古事記にも記ありしは
 さつらねもはく功として古事記にも記ありしは

如此 久失 氏天 皇我 朝廷 尔 仕奉 留 官官
カ ク ウレナヒ テ スメラ ガ ミカド ニ ツカヘニツ ル ツカサグ

人等 乎始 氏天 下四 方尔 自今 日始 氏罪
ヒト ドモ ヲ ハジメ テ アメノシタ ヨ モ ニ ケフヨリ ハジメ テ ツミ

云 布 罪 波 不在 止
イ フ ツミ ハ アラジ ト

後釋 不在 止 被給 此 清給 事乎 此の語どもをへんは
 く御魂のつらねもはく功として古事記にも記ありしは
 云 布 罪 波 不在 止 といひしは云ふ事之如久遺罪 波 不
 在 止 といひしは又あはくはつらねもはく功として
 言ひつらねて拙きが如くおぼしきこと古文のつらねもはく功として
 條理を以てして是を拙くば條理よくあらはしめて

日御の言ゆるみち一りどあてもつてねくねくもつとど又さぬみ
よりてハハくつままりてもいぬきまを今人なほとめて日御を言
糸ドとかたあかかか中くお拙くねくもま一申言は文おもおふ
いせお流るどおおまもくは日御をいくつもかまひつしひあらしとせ
ぬくもまき
ぞか

高天原 耳振立聞物 止。馬牽立 氏。

考云馬ハ耳疾き獸なるあふ云つ神あつ神のけやに被の御を
とく笑食ふもくへく被物とまもし出雲國造が神賀日小
と馬を献るゆと振立流事波耳能弥高天下所知食
事志太米といつを以て知べ一〇日頭書云後考本小くを

さき糸のハの耳を振立といつはむかひねくも上ふつてぐと一。
○後釋 高天原ハ殿造り成りあつてさる系お千本さる知と
いやくはさあてく高くといやくもかもさる系まを至家より
おあつて此まもさる系お坐神もあつてあつてあつてあつてあ
後まといつてねく牽立氏被給比とほくくてみまをむ。
大被ぬ馬を引るるハ上ふつてり。まを自今日始氏といふよ
ま下お野群載ふのまもあ自今以後遺罪止云罪咎止
云咎ハ不有止被給比清給事ヲ被戸乃八百萬乃御神
達ハ佐乎志加乃御耳手振立天聞食止申とつてハ申言
の人乃たは事まもまもまもまもまもまもまもまもまもまも
むぐもねくも考はまもまもまもまもまもまもまもまもまも
陰陽師ぞとまもまもまもまもまもまもまもまもまもまもまも

しめてゆきてつじとてしつゝとつていふものうをやく。そふかく
りてむが免ておきしむ。

コトレノミナヅキノツゴリノヒノユフヒノクダチノオホハラヒニ
今年六月晦日夕日之降乃大被尔。

後釋夕日之降とハ夕つ方と云降と久延知とてむ古と云。朝ふ
ふ事ハ朝日ニ豊稔登ルといふ朝夕の事かくいふもの雅言

被給比 清給事 諸聞食止 宣。

考云。ろとて被給読ゆる。百官称唯

○後釋諸とハろとて先ハ集侍親王云々等諸とつて諸をさ
とらり。宣といハ中臣みづく
いふるる。ろとてはろと

四国ト部

伊豆壹岐對馬今国
ハ常陸ナリ常陸ニト部
アルトト統記又万葉ナ
ト二見エタリ
万葉西ニテ武藏野ト部
云々トヨリ

ヨ 四 国ト部等。大川道 持退出 被却

止ト 宣。

後釋此一はと被の何宣読て別ふト部ハ作さる何とて云々
ハつてきて中臣被宣し。

○考云ト部ハ解除の事をもろと被何読りて後と云々ハ
つ物ハ川も出たはしやとて作せ給ふとて此文より説ひ
ざとてよハ四毛と候もふぬとて乃字を係られむ与毛ハ
ト毎きて右とて係ふ遠なり。始とバモ字ハ方誤と云々ト下
乃字を為さるハハ。又川道の道と用る。是の誤ゆらん
又ト部ハ職負令神祇官下ト部二十人と云々。延喜臨

○大被詞後釋下

時祭式ハト部取ル三國ト術優長者ヲ伊豆五人壹岐トり
こハ神祇友ト託シ負カも令式ニてハ御ヲをシてハ御ヲト託
寺トハハハハハハト託寺リハハト託ニあリるニあリるニあリるニ
伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト
きハ又ハ伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト伊豆ト
了ト了ト了ト了ト了ト了ト了ト了ト了ト了ト
藤原ハ藤原ハ藤原ハ藤原ハ藤原ハ藤原ハ藤原ハ藤原ハ藤原ハ
大伴ハ大伴ハ大伴ハ大伴ハ大伴ハ大伴ハ大伴ハ大伴ハ大伴ハ
てハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ此ハ
かハかハかハかハかハかハかハかハかハかハ
もハもハもハもハもハもハもハもハもハもハ
ト託ハト託ハト託ハト託ハト託ハト託ハト託ハト託ハ

○後釋。四毛國トトテ毛ハ後ハ後ハ後ハ後ハ後ハ後ハ後ハ後ハ後ハ
のハ
例ハ
也ハ
四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ四國ハ
唯ハ
云ハ
也ハ
部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ部取ハ
也ハ
英ハ
也ハ

微牟須毘高御魂ハ多加美牟須毘生魂ハ伊久牟須毘
足魂ハ多流牟須毘玉留魂ハ多麻都米牟須毘大御膳
都神ト意富美氣都加微ト何ベシトシテ伊食神トみまろの
うみと之を居てしむとむがとこし

手長御世ハ足長の世と云ふ也伊壽者長久天足有
皇吾睦神漏伎命神漏弥命登云々

あま皇祖神あまぬ神とらふも何と云ふも厚くきみあひしむみる
皇祖神とてあり給ふも登といふ辭をこふ第十四ノ
位流るちぢの川乃ささしとも君一ぬきてばおとらるも守
けむと此登の何ドおぬるもむらしてむらつじとせぬん給へ
宇豆乃幣帛乎称辞竟奉

考ふ此倍を畧るもととつとれととど物に奉ハ献るま又

奈家もつる言ねば称辞を竟て献家といふあなるし

谷蟻能狭度極狭を信をたてたぼるしけ物とつづくまてと
靈々行通依物もあふいたり考の能ぬへと狭き極をいふ

國能退立限とら天り對へ地を國といひり立とハ大海を

音雲トハ音泥をいふ考ふ白と色りいせとらハもがへと白
雲も次りいなり

履佐久弥トハ岩根本の根也凸凹ある道をゆきゆくをいひり
裂こといふ説もいなり

辞別伊勢尔坐云々の條ふ皇吾睦神漏伎神漏弥命登云
云こも天照大佛神ハ比賣神尔坐をバ神漏弥もを神漏伎

傷^{ソコナ}ひて成^レり給^ハばさしなむと訓てハ上の作物^ヲの乎^ヲ小^ウねむん。
歳^{トシ}真^{マコト}尼^ニ久^ク々^ク歳^{イシ}年^{ネン}もさむるこころ柴^ハもまき言^ハしてま^カなむが
くまむるをいつり。吾^{ナリ}間^マ乃^ハまじくハ行^ハふべ。

此^レ終^ル田^ノ神^ヲ云^ハ包^ムはまふ。亦^ハ終^ル了^ルこと。もてハ入^リてまじくこと。古
事^ニ記^ス彼^レは及^ブ小^ウ云^ハく及^テ河^ノ瀬^ニ又^ハ於^テ坂^ノ之^レ御^ノ尾^ノ神^ヲ無^ク遺^ラ忘^ル以^テ奉^ス
幣^ヲ帛^也と云^ハく書^ノ紀^ニ也^ト。便^ニ別^ニ祭^ス八十^萬群^ノ神^ヲ云^ハくとあ
まハ風^ノ神^ヲ祭^スも此^ノ内^ニハ行^ハふと云^ハく。備^ハる。

百^モ能^ノ物^モ知^レ人^トとハ多^クの相^チり人^トといふこと。百^ハ物^ノ知^ル人^ノ乃^ハ救
をいつる。百^ハ物^ノ事^ヲをさむる人^トといふこと。百^ハ物^ノ知^ル人^ノ乃^ハ救

聞^ク食^ム。考^ヘのけ言^ハの傳^ハあつら用^ハまきこと。
思^ハ行^ハ波^ノ須^ノ。ことよむべきまふこと。くまむるはまじくや
小^ハおりにく。かこねをまきと訓べ。ことならん。思^ハ給^ハこと。

古^クくふんをねむるといふ。考^ヘるも古^クの記^シ書^ニ記^ス續^キ紀^キあど小^ウ。
看^ミ行^ハと云^ハく。ことし。又^ハかこねをねむるといふ言^ハのつまなりこと。
志^シ濃^ク許^スを切^ツむ。曾^ソとねむ。從^テ委^スきまハたなり。記^シ傳^ハ七^ト小^ウいつり。
此^レ乃^ハ皇^ノ神^ヲ能^ク前^ニ。稱^ス辭^ヲ竟^テ奉^ス。ホ。この奉^スホ。麻^ニ都^ノ理^ノ尔^トと訓べ。
くへことまなり。小^ウ王^ノ乃^ハ等^ハ河^ノ邊^ニをいふ。倍^シ。考^ヘふ。この尔^ト字^トと。
止^ムふ改^メて。まつく。と訓べ。ハ。むか。く。云^ハてハ。下^ニ。文^ヲ小^ウ。
かゝる。ん。ん。
雜^ク幣^ヲ帛^ヲ奉^ス。氏^ノ御^ノ酒^者云^ハく。酒^ノ酒^者と云^ハく。下^ニ。ハ。み。此^レ古^ノ神^ノ。
比^レ賣^ル神^ヲ合^セて。一^ツふなむ。物^ヲぞと云^ハく。
被^レ賜^フ。氏^ノハ。か。か。つ。と。と。訓^ベし。幣^ヲ帛^ヲ取^ルと云^ハく。凡^テて。ん。
ま。つ。と。つ。か。あ。方^ヲか。つ。き。て。い。ふ。か。ね。ふ。古^ノ書^ニふ。と。ま。
く。被^レ賜^フと云^ハく。と。を。と。と。賜^ハと云^ハく。ハ。累^シ。

賜事無といひし。賜を此邦の係と云ふ。是は會ハ阿波
 と訓べし。阿波ハ考ふに、是は阿波世のつゞきなり。是
 邦にして令會は、考ふに、是は阿波世のつゞきなり。是
 邦ハ、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 遠つり、此邦の諸の、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 として、おまどらり、おほく、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 拂却言排坐。拂却ハ、福津日、此邦のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 言排を、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 邦ハ、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 曾氣と訓つ。考ふに、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 くぬとの、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。

○道饗祭

高天原云々、亦辞竟奉。大八衢。此文むげおせぬこと。
 後ふ多く脱せしむや、考ふ補を、如く、是は阿波世のつゞきなり。
 根國底國。利云々。此門の、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 と、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 相口會事。此會ハ、阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 阿波須流の切、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 下行者云々、上行者云々。下上ハ、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 考ふ、下ハ地底、上ハ天つ、是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 茂御世、幸奉給止申。是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。
 是は阿波世のつゞきなり。是は阿波世のつゞきなり。

言し。ち文をいも奉り。天皇は四方をささる云給。神の
 方波をささるこちまきこふ如く云べきことわふさやをいふれ
 をふら古文ハ乞をささめていたとわく。奉とのいなり。も
 とへを祈年系河の詞別ふ。天照大御神申込河もささる。云如
 事。皇大御神 ^能 寄奉 ^波。皇御孫命御世 ^乎 云幸 ^用
 奉故 ^あ じ ^い け ^が ぬ ^い が ^ぬ ぬ ^い ぬ ^い ぬ ^い 寄奉給 ^波 幸
 幸 ^用 奉給故とあまべくさや言なすけさハいもぬさ古文乃
 例も。物もふ此祝詞又平家系赤戸系ねまふかくたの後の
 文もさかぬ此祝詞ふら上文ハ守奉齋奉 ^此 進幣 ^帛
 者云くとらハ古文の係し。
 此祝詞を考ふ銀のこちささる。道食系ハうねをいふ思ふ
 ふこちハ臨時祭式ハ八衢祭といふやいふことハ祝詞あり

多きをとりまげりて。道食のとせさし。ささる遷却崇神や
 影 ^{ヒナ} 一もささる祭系の祝詞まきや。ささる彼もふいふを考ふ
 こそささるべし。

○鎮火祭

天都詞太詞事。このこととくつた祝字ねきハ省きたるまぶ
 まじ。物も考ふ祝詞まむらハ中いふといふれささる。

んねをかくささる祝詞の字をいふ嫌やハのささる
 を詔賜言こつさみけり。乃祝をまむそのかささるこち
 火結神の^{ホムスビ}名^ナを考ふ祝うけり。

夜七日。け日字考ふ夜改ささる。ささるこちえと集ふ引也
 吾奈妹乃命。伊邪那岐命伊邪那美命をいふ兄弟とんけらハ。

命と。後の世に火の災をいみじくおぼしめて、その鎮
むべき物を生祭し、その御座してまつたよき福をうけおぼへお
きやうおぼせしむるは、神も成、此命は、その御座をあらがせて、荒
ぶ祭ふまといふこととせむるは、おぼしめて、その御座して、

此祝詞を考や、おの鏡ひもけあふりて、ほろりともぞわし
うぞも、まづは文いしおぼし、おぼし、その御座して、その御座して、
その古文の手やるとおぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、

○大嘗祭

此祭は、考ふいし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
毎年の新嘗まつて、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、

豊明亦明坐

豊明といふ、即明坐をいふ、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、

き、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、

此祝詞、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、
おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、おぼし、

是よりハ中々古言波よく考へらばなるも、
ふくま古言波し、
ふくま古言波し、
ふくま古言波し、
ふくま古言波し、

○伊勢大神宮

此系し、考ふりて、
考ふりて、

○豊受宮

考の從信か、

○四月神衣祭

考の從信か、四月九日の神衣祭、大神宮
考の從信か、四月九日の神衣祭、大神宮

○六月月次祭

作食留ハ都久理多夫苗と列べし、
作食留ハ都久理多夫苗と列べし、

といふなり。

海山、考ハ山海と改め、
海山、考ハ山海と改め、

置足成天、
置足成天、

太玉串、
太玉串、

太玉命といふ名も、
太玉命といふ名も、

手向の物を執持、
手向の物を執持、

太玉命といふ名も、
太玉命といふ名も、

手向の物を執持、
手向の物を執持、

太玉命といふ名も、
太玉命といふ名も、

手向の物を執持、
手向の物を執持、

太玉命といふ名も、
太玉命といふ名も、

○同神嘗祭

護惠 美幸比給止。比字ハむがことし倍とつべきし比せてハ自
他のしむびあり上の六月月次祭河内倍とつべき正一き。
懸稅云々。考乃稅の説傳あどとととと。

○齋内親王奉入時

齋内親王波。ハ波ヲお辞々うけつて乎とつべきことし。齋内親王
ヲうけ杖代止定氏とはなく候し。波ヲハかゝるべ。
御座坐オホニシメサ志米シメ車止クルマトドメちあやましませめむし訓べし。大坐オホニシメくとり
云古書に多く候あつて候を考ふ座字つるまじりといふこと
もハふふぢや。なまは候もいづくもがり申すより候なり。
ふるまふといふも大坐オホニシメくつりたるし。保麻ホマハ波ハとほま
ふじちたる集のりの河内ハおきしとつべきことし。まじりあま
しきし。

皇御孫之尊。みむすぶ尊字波出るハ古なるなり。ことおとど
と書記より虫始つてより後とと波うくも若のりお
て。そと何々々々。かかん。考ふ此字つるしむびてふ。まが
たし。海ハあぢまきおき偏し。

○遷奉大神宮祝詞

皇御孫 能御命乎以。
こを孫の下お今一つ命字つるべき波。な。ら。

此祝詞の文も。も。ゆ。装束神寶を進了候お時の祝詞か
て。遷宮の文よりつるべ。い。額を虫。誤る。なるべし。

○遷却崇神

考ふ祭詞、二字を補ふこと。祭字ハ始るべし。詞字ハ例おふが

へんさきして是ハ上カもいづこく。道餐、糸の祝詞あるにまぎれそ
此類をづくし。臨時糸式も他の書たりと。遷却崇神、祭
とよふ糸をづくしあるなり。

神留坐氏。考ね後一よりハいられもかく好まざらん。この神孫、
令波天降しなり終ふ事かつきて云わす傳ふとバ、神留坐氏
と姑く語を絶て下文の天降所寄奉。志時ふと云へ係てられバ
留に終ふことして何の妨ぐりなく。又事始給といふも、係、令
を天降しを終ふ事波さといふるとバ、雲うけしきても留
さきてやめしことし。

誰神乎先遣ツカササ波。一本又元々集ふ引きくるふも共志字ハ各
一。波りいさばと訓べきし。志字ハ後人のさかいらふ如くする形
べし。り遣波志ねるバ氏といふをハ言ほし。

立處タチドコロ氏。氏字ハ尔を伝ふるなり。

天御舎之内仁坐須皇神等。これを坐上カ入来、二字なりて。

入来坐ねどまきんが、も字の脱る形べし。そのを所殿の内、
りせらり悪神乃坐べきは、りり又悪神のさきと。りせより坐
りて、崇に終ふ事とバ、もとひ崇に終ふ事なりと。りせより坐
りて、和名なるものも、りせより坐りて、他取へ遷却ることハ、づくべし
も、りづく。さきよりハ、りせより、り書かふ事と。りせより、り書くこと
て、りせより、り書く。又此祝詞を道餐糸のと、りせより、り書くことハ、り書く
み、り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書く
舎之内仁入来坐皇神等と、りて、り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書く
り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書く
都之内ハ、り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書くことハ、り書く。り書く

〇遣唐使時奉幣
 八物ハ、八字ハ、凡を信する也。凡物ハ、机代物といふと曰也。考、
 ハをヤとリと訓て、古事記ハ、紀ハ、五といふれと云也。八取と
 してハ、物ハ、五といふ也。百取といふと、何と云ふ也。八取ハ、
 〇遣唐使時奉幣
 八取ハ、物ハ、五といふ也。百取といふと、何と云ふ也。八取ハ、
 〇遣唐使時奉幣

〇遣唐使時奉幣
 使遣 佐牟為ル云、船乗止為、
 乗の下、
 紙たり、使者者ハ、
 不使と一つ、
 考、小使者、
 〇遣唐使時奉幣

〇遣唐使時奉幣
 使遣 佐牟為ル云、船乗止為、
 乗の下、
 紙たり、使者者ハ、
 不使と一つ、
 考、小使者、
 〇遣唐使時奉幣

あり、一字二字などハ、後ハ、虫ウハ、も、好ムナク、ん、こ、ん、
の文字よく、了、了、古き近きを、定せ、べき、が、好也。

上の件、ゆ、ゆ、祝、詞、も、ど、ど、師、の、考、ま、て、く、く、く、解、ま、り、
今、ハ、も、ど、ど、ふ、り、と、も、も、又、も、ど、ど、り、と、も、ど、ど、り、と、も、ど、ど、り、
と、も、ど、ど、り、と、も、ど、ど、り、と、も、ど、ど、り、と、も、ど、ど、り、
好、く、て、と、も、ど、ど、り、と、も、ど、ど、り、と、も、ど、ど、り、と、も、ど、ど、り、

鈴乃屋藏板

寛政八年丙辰之春發行

勢州松坂日野町

柏屋兵助

京都二條通柳馬場東入町

林伊兵衛

同三條通寺町西入町

正本屋吉兵衛

同寺町通佛光寺下町

錢屋利兵衛

製本弘所書林

